

語りにおける登場人物の発話のコードスイッチング

—日中バイリンガルの会話を対象に—

戎 芸（関西学院大学大学院生）

1. はじめに

日常生活において、会話参加者は常に何らかの形で自分の身に起こった出来事や見聞きした出来事を「語る」という行為を行っている（高木・細田・森田, 2016）。何かを語る上で、その語りの重要な部分や注目箇所を示し、聞き手に理解してもらうことは語り手にとって大きな関心事であると思われる。語り手が語る際に、再現性を高めることや、個人の感情を伝えることなどの目的を達成するため、ことばの選択や音調の変化などによる異なる言語スタイルを選択することが多く見られる。そして多言語話者にとって、コードスイッチング（code-switching, 以下CS）（Gumperz, 1982）を用いることがそれらの目的を実現するための一つの手段となっている。

多言語話者のCSに関する従来の研究は、CSがどのような要因によってもたらされるかについて分析してきた。それらの研究を通して、CSが特定の話題について議論したり、特定の社会的役割を強調したりする際に用いられ、CSの使用が話者の属する言語環境と言語の習得と深く関係していることや（Li, 1995; 藤村, 2013）、CSが話し手の語彙力不足などによって生じるコミュニケーション上の問題を解決するために用いられること（Fotos, 1995）などが明らかになった。だが、従来の研究で指摘された、CSの使用に影響を与える話者の社会的な属性や特定のコミュニティへの帰属感などが、どのような形でどのように実際の会話に影響を及ぼすのか、また、コミュニケーションの問題を解決するために、参加者がなぜ多様なやり方がある中でCSという方法を選択するのかといった問題は十分に検討されていない。また、「語り」という場面では様々な要素が存在しており、物語を語るという行為を通して、情報を伝達するだけではなく、個人の感情やスタンスを示すことも達成される。このような場面において、CSは、本来の言語的な機能だけでなく、それ以上の役割を果たすことも期待される。そのため、CSと実際の会話の文脈や状況との関わりを検討する必要がある。従って、本発表は日中バイリンガル話者同士が中国語で会話する際に見られる「語り」の場面に注目し、その場で行われる中日両言語間のCSに焦点を当て、CSがどのようなタイミングで、どのような形で産出され、そして相互行為においてどのような働きを持つかを明らかにすることを目的とする。

2. 分析と考察

本発表では、筆者が2021年に収録した某大学の同じ研究科に所属する中国語母語話者の会話データを用いる。分析したところ、語り場面に見られるCS発話は、語り手が、語りの中で日本人が登場する場面で産出した内容を「xx说（xxが言った）」という直接引用の形で、演技を含めながら産出されていた。そして、そのような特徴によって、その発話自体が自分の語りのクライマックスであることを聞き手に理解できるようにデザインしていることが明らかになった。以下では2つの事例を見ていく。

2.1 事例の分析

事例①は、日中バイリンガル4人の自然会話である。お正月の話が出たことをきっかけに、時間が経つのがはやいと参加者が嘆いていた。なお、撮影当時は10月31日であった。

断片の冒頭で、Jは、みんなが食べている梅の砂糖漬けがお正月に買ったものであり、そしてその時に一個食べて以来、もう食べていないと述べる（01・03行目）。Jが産出された「お正月」ということばをきっかけに、Sが「前面说过年的时候我觉得很近，然后发现现在已经11月了（さっきお正月と聞いた時、とても最近なものだと思っていたが、気付いたらもう11月になっている）」と、気付かないうちに時間が経つのがはやいと感想を述べている（09・11行目）。それを聞いたJは、12行目で強く「对（そう）」と言うことによって、Sの発話に同意を示している。その後、15行目から、Jが「今天早上（今朝）」、「在店里（店で）」「看杂志（パンフレットを読

¹ 「バイリンガル」を言語能力と言語使用という二つの異なった観点から見ると、様々な定義があるが、本研究では、Grosjean (2008) で定義された「バイリンガルは日常生活で2つないしはそれ以上の言語を使う人々」という定義を採用する。

む)」などの時間や場所に言及し、これからお店でパンフレットを読んだ時に関係する何らかの物語を語り始めようとしていることがわかる。そして、Jはコンビニでのアルバイトで、店に置いてあるクリスマスケーキやおせちを予約するパンフレットを読んだ時に、一緒に働いた日本人がそれを見て、「もうこんな季節だ」と嘆いたという出来事を語り始め、27行目でJはその発話を中国語から日本語へ切り替えて産出している。

事例①[こんな季節-はいいな]

- 01 J: 这个也是过年的时候买的。
これもは正月の時 買う NOM
 これもお正月に買ったもの。
- 02 T: hehe
- 03 J: 吃了一个。‘再也沒’
((手を振りながら、口には‘吃(chi, 食べる)’の形をしている))
食べる PFV 一つ 二度と_しません
一つは食べた。それ以降はもう(食べていない)。
((中略 04-08))
- 09 S: =前面说过年的时候我觉得很近,
前 言う 正月の時 私 思う とても 最近
さっき「正月」と言った時、それはとても最近なものだと思うが、
- 10 T(?): 嗯
うん。
- 11 S: 然后发现现在已经11月了。
それから 気づく 現在 もう 11月 CRS
気づいたら今はもう11月になっている。
- 12 J: 对
そう。
- 13 S: h[hh]
- 14 T: [明天就11月了。
明日 ADJ 11月 CRS
明日からは11月だ。
- 15 J: >今天早上在店里上班<没事干
今日 朝 PROG 店に 仕事する NEG こと やる
今朝お店でやることなく、
- 16 就看那个>放在旁边那个<杂志,
((Jはコンビニでアルバイトをしている))
PRT 読む あの 置く DUR 隣 あの パンフレット
隣に置いてあったパンフレットを読んで、
- 17 T: 嗯=
うん
- 18 H: [=“嗯”
うん
- 19 J: [=「就是,.hh 上面- 有两坨:」,
PRT 上 ある 二つ 数量詞
あの、上は、二種類がありまして、
- 20 上面一坨是那个:クリスマスケーキの予約,
上 一つ 数量詞 は あの
上はあの一、クリスマスケーキの予約(のもの)で、
- 21 H: [嗯
うん
- 22 T: [嗯
うん
- 23 J: 下面一坨就是おせち。
下 一つ 数量詞 PRT
下はおせち(の予約のもの)。
- 24 然(h)后[(h)我在那边看的时候,
それで 私 PROG あそこ 見る NOM 時
それで、そこで読んでいたときに、
- 25 H: [“嗯:::
うん
- 26 J: .hh 那个:」,
あの
あのー、
- 27 → 搭班>的<人走过来 说 あhh もうこんな季節だ[hahahahaha
((肩を下ろしながら))
バイト仲間 歩く ってくる 言う
バイト仲間が来ていて、「あ、もうこんな季節だ」と言った。
- 28 H: [hahaha
((顔きながら))
- 29 T: [hahaha
- 30 (3.2)
- 31 T(?): 嗯
うん
うん。
- 32 H: はいいな::

CS が用いられた 27 行目までの背景説明や情報提供などは、他の会話参加者たちに当時の状況を説明すると同時に、これからどのような内容が来るのかを予測できるようなヒントとなっている。例えば 17-23 行目で、Jは当時読んだパンフレットの種類を「クリスマスケーキの予約」と「おせちの予約」だと説明し、年末の時期に特有のものを紹介することにより、これからくる内容が、時期やフェスティバルに関するものだという可能性が予測可能になる。そして 24 行目で、Jは 16 行目で発話した「それを読んだ時」を繰り返すことによって、情報の補充説明で中断された話に戻り、語りを続ける。そして 26 行目で「那个:(あのー)」と言い淀んだあと、27 行目で CS を用いた発話をおこなう。この発話の組み立てを見ると、まず「バイト仲間」という登場人物を提示して、「来ていて」という移動性を表す表現を使うとともに、手を離れている方から体の方に振ることによって、「バイト仲間」が遠い方から J のところに歩いてきたというシーンを再現する。このことから、J が当時の状況を身体動作も含めて再現していることが理解できる。次に、「说(が言った)」という直接引用マーカーを用い、日本語で「あhh もうこんな季節だ hahaha」と述べ、中国語から日本語への CS 発話を産出する。この CS 発話は当時のバイト仲間の発話を直接的に引用しているだけでなく、「あhh」というため息に聞こえる呼吸音を込めて、さらに肩を下ろしながら産出されている。このような音声的な特徴と身体的な特徴から、語り手である J がある種の演技を含めながら当時の状況を表現していることが分かる。そして、この部分こそが自分の語りで一番ポイントであるということ聞き手に示している。

次の事例②も 5 名の日中バイリンガルの自然会話である。会話参加者 R がほかの 4 人に同じ研究科に所属する日本人学生イズミとのやりとりについて語っている場面である。01-03 行目で、「之前(この間)」という時間軸を表す表現と、「我跟イズミさん(私とイズミさん)」という人物を指す発話、「研究室(研究室)」という場所を示す発話とともに、「闲聊(雑談)」という会話内容が示される。これらの要素から、R はこれからイズミと研究室で雑談したことに関係する物語を語り始めようとしていることがわかる。それから、R は、自分の出身地が中国の江蘇省²であることをイズミに伝えた後(13-14 行目)、イズミと同じゼミに所属する中国人ベンの出身地が自分と近いかどうかの確認を求めている(19-20・24 行目)。R はこの二人は同じゼミに所属していて、その答えを知っているはずだと思っていたが(25 行目)、イズミは全く違う地名を答えてしまい、語り手である R がその答えを中国語から日本語へ切り替えて「え:::? どう↑だろうな::。ベン君はね(.)ペキンだっけ」と発話した。そ

² 江蘇省：中国南東部の省であり、周辺の浙江省と上海を合わせて「江浙沪」(23 行目)と呼ばれる。

のCS発話を聞いた直後、全員が笑い出す。

事例② [ベキンだっけ-全然違うじゃん]

- 01 R: haha(.) ♪就 之前_{ADV}, 之前 那个 叫 什么,
この前、この前、あの何という、
- 02 就 有一次 我跟: イズミさん,
ある時 私 と
ある時、私とイズミさん、
- 03 只有 我们 两个 在 研究室,
だけ 私たち 二人 PROG 研究室
私たち二人だけが研究室にいた。
- 04 就: 闲聊 嘛 ((よだれを飲み込む))
ただ 雑談 PRT
ただ雑談してただけど、
- 05 S: ♪他 今年 也 去 做(.) 補佐 啦₂
3SG 今年 も 行く やる 補佐 PRT
今年彼も補佐やりに来たの?
- 06 R: 没有=
NEG
いいえ。
- 07 S: =イズミ
- 08 R: 没有. 他 就是 去 hh. 闲(h)聊(h) 的(h)
NEG 3SG ただ 行く 雑談 PRT
いいえ、彼はただ喋りに来た。
- 09 然后 我 就 问 他, 啊 ta-
それから 私 ADV 聞く 3SG PRT 3SG
それから私は彼に聞いて、あ、kare-
- 10 我 才 知道 他们俩 一个 ゼミ,
私 PRT 知る 3SG PL 同じ
そこで彼らは同じゼミだと(いうことを)知った。
- 11 然后, 我 说, 啊: 他 说 你们 tyu-
それから 私 言う PRT 3SG 言う あなたたち
それから、私が、あ、彼が、あなたたち tyu-
- 12 R: 他 问 我, 说 你 是 哪里 的 出身,
3SG 聞く 私 言う あなた は どこ NOM 出身
彼が「あなたはどこの出身?」と私に聞いて、
- 13 然后 我 说 我 是 那个.: 江苏省,
そうしたら 私 言う 私 は あの 江蘇省
そうしたら、私は、あの、江蘇省だと言った。
- 14 就 ち っ と 南 の 方 シャンハ (h) イ (h) の (h) ち (h) か く
ADV
まあ、ちょっと南のほう、上海の近く。
- 15 F: °嗯°=
うん
うん。
- 16 R: =我 一般 都 这么 说. hh
私 普通 ADV こう 言う
私は普通こう言います。
- 17 因为 他们 都, 不知道: 肯定.
なぜなら 3SG PL ADV 知らない 絶対
彼らは絶対知らないから。
- 18 F: °嗯°=
うん
うん。
- 19 R: =啊 >然后<, hh 呢, 我 就 说: 那个,
PRT で ONM 私 ADV 言う あの
あ、で、え、私が、あの
- 20 那 ベンさん 是不是 跟 我 很 近,
じゃ NAME でしょうか と 私 と とも 近い
じゃベンさんは私と近いのでしょうかと言ひ、
- 21 因为 我 听 过 他 讲 (.) 一两句 中文,=
なぜなら 私 聞く EXP 3SG 喋る いくつか 中国語
なぜなら、彼が中国語をいくつか喋っているのを聞いたことがあるから。
(19-21: あ、で、え、私が、あの、じゃベンさんは私と近いのでしょうかと言った。なぜなら、彼が中国語をいくつか喋っているのを聞いたことがあるから。)
- 22 S: =他 是 浙江(.) hu- 人
3SG は 浙江 人
彼は浙江人。
- 23 R: 对 对 对. 我 觉得 他 口音 像 江浙沪 那种 口音.
そう そう そう 私 思う 3SG なまり ような 江蘇省 浙江省 上海 あの なまり
そうそうそう、私は彼のなまりは江蘇省や浙江省や上海のようななまりだと思う。
- 24 我 说 那. hh 那 ベンさん 是不是, 跟 我 很 近.
私 言う じゃ じゃ ですか と 私 と とも 近い
私が、じゃ、ベンさんは私と近いのですかと言った。
- 25 我 说 他们 >不是 一个 ゼミ 的 吗, 应该 知道 吧.<
私 思う 3SG PL じゃない 同じ POSS PRT はず 分かる PRT
私が、彼らは同じゼミのじゃない? 分かるはずだよなと思った。
- 26 → >然后< イズミ 说, .hh (.) え.:? どう ↑ だ ろ う な.: ベン君 は ね (.) ベキンだっけ
((手であごを支えたり、頭を支えたりしながら))
そうしたら 言う
そうしたら イズミが、「えー、どうだろうなあ、ベン君はね、ベキンだっけ」と言った。
- 27 ((全員笑った))
- 28 F: ♪全然違うじゃん♪
- 29 R: ♪全(h)然(h)離(h)れ°てる°♪

ここで26行目のCS発話を見ていく。ターゲットラインまでの背景説明(10行目で語られたイズミとベンは同じゼミであることや、21行目で提示されたベンのしゃべった中国語を聞いたことがあることなど)、そしてSとのやりとり(22-23行目)が、Rとイズミが会話していた当時の状況を説明すると同時に、Rが推測したベンの出身地に関する内容を裏付けるものとして提示される。加えて、20行目の「那ベンさん是不是跟我很近(じゃベンさんは私と近いのでしょうか)」という質問の答えはまだ語られていないため、この後にくる発話はRの推測と関わる内容であり、直前の質問に対する答えとなるものが期待される。また、22行目でSが出した「他是浙江人(彼は浙江省³の出身)」という情報に対して、Rが「对对对(そうそうそう)」と同意を示した上で、「我觉得他口音像江浙沪那种口音(私は彼のなまりが江蘇省や浙江省や上海のようななまりだと思う)」と自分の意見を述べるとともに、この発話が21行目の発話と結び付けることによって、自分の語りを続けるといえる。なぜなら、21行目で「因为我听过他讲一两句中文(なぜなら、彼が中国語をいくつか喋っているのを聞いたことがあるから)」という発話はRが自分と近いと考える証拠的な発話として理解でき、この根拠に対して、直前に言った「跟我很近(私ととても近い)」という広い範囲から、「江浙沪(江蘇省、浙江省、上海)」という具体的なところに特定し、描写の粒度を上げることによって、Rがもう一度自分の出身地と近いと思う理由を強調すると聞こえるからである。さらに、その次の24行目でもう一度20行目の内容を繰り返すことによって、Sとのやりとりによって一旦中断された進行中の語りを再開する。そのため、この後に来る内容は、登場人物であるイズミによる、「私と近いのでしょうか」(20・24行目)に対する応答であることが期待される。そして26行目で、RはCS発話を産出する。その発話の組み立てを見ると、冒頭でまず「然后(そうしたら)」という接続表現が用いられ、次に「イズミ说(イズミが言った)」という直接引用マーカーによって開始される。したがって、この次に来る発話がRの質問に対するイズミの答えであることが予示される。そして、ごく短い間合いの後、日本語で「え.:? どう↑だろうな.: ベン君はね(.)ベキンだっけ」と中国語から日本語へのCS発話として産出される。このCS発

³ 浙江省: 中国南東部の省であり、周辺の江蘇省と上海を合わせて「江浙沪」(23行目)と呼ばれる。

話は単純に当時のイズミの発話が直接的に引用されているだけでなく、「え::?」や「どう↑だろうな:」のように音を伸ばしたり、音調を極端に上げたりと、抑揚をつけて産出されている。さらに、その発話の最中に伴う身体動作を見ると、手で顎や頭を支え、思い出そうとしている様子や、考えている様子を表す動作を同時に行っている。以上のような音声的特徴と身体動作的特徴によって、Rが演技的に当時の状況を表現していることから、当時のイズミの発話により近い形で再現しようとしていることが窺える。また、このようにCSを用いて実演することにより、語り手は、イズミの答え方が自身の物語において最も注意深く聞くべきところであるということ聞き手に示すと同時に、この発話自体の言い方やしぐさも面白いものであるというR自身の理解と語りにおける自身のスタンスを示しているように見える。

以上の分析が示すように、26行目のRのCS発話は、この物語におけるクライマックスとして聞けるようにデザインされていることがわかる。なぜなら、上述したように、R自身がこのCS発話によって産出した日本人学生イズミの発話を「面白いもの」として表現しているからである。かつ、まさにそのように聞くべきことを、聞き手に示しているように見えることから、それが窺える。しかしそれだけでなく、26行目以前までのやりとりも、26行目が物語のクライマックスとして産出されるための準備として聞こえる。Rはイズミに向けた「ベン出身地が自分と近いか」という質問に対し、自身の見解の正しさを根拠とともに主張していた(21, 23行目)。一方で、ベンと同じゼミであるイズミはその質問に答えられるはずだと想定していたことも、同時に示していた(25行目)。それにもかかわらず、イズミの答えが「期待外れであった」ことを、26行目でまさにイズミの発話の直接引用として表現し、イズミの回答の「おかしさ」をマークしているように聞こえる。したがって、Rは物語の「クライマックス」を「クライマックス」として産出する準備をそれまでの物語によって整えていたと言えるだろう。

2.2 小括

2つの事例に見られた特徴をまとめてみると、まず、CSが見られる語りには日本人が登場するという特徴が共通して見られた。そして、そのような語りに用いられるCSは、その登場人物の日本人の発話の引用であることがわかった。その際に、語り手はまず「xx 说 (xx が言った)」という直接引用を示すマーカーを用いて、これから登場人物がその際の発話に来ることを予示する。そして、語り手は日本語に切り替え、身体動作や音調的な特徴を用いて演技的なふるまいをしながら、その発話をCSによって再現するという産出上の特徴が見られた。このような特徴を持つCSを用いて、語り手があえて中国語から日本語へ切り替えることで、語りの中に登場した日本人の日本語発話を直接引用の形で再現し、同時にその場面を演技的に語ることによって、聞き手に臨場感を与え、語りの再現性を高めることができる。加えて、その発話自体が自分の語りのクライマックスであることを聞き手に理解できるようにデザインしているのである。

3. おわりに

以上、本発表では、中国語の日常会話における語り場面に見られる中日両言語間のCSに焦点を当て、CSがどのようなタイミングで、どのような形で産出され、そして相互行為においてどのような働きを持つかを明らかにすることを試みた。また、語り手がCS発話を産出する際の特徴と文脈上における位置を考察すると、日本語が理解できる聞き手に対して、日本語環境で起こった出来事やその時の状況をそのまま再現することにより、聞き手に臨場感を与え、聞き手も実際にその場にいたかのように反応する機会を与えることができる。他のデータで、語り手がCS発話を産出した次の位置で、聞き手もCS発話を産出した事例が観察できた。以上の分析結果は、語り手によるCSの利用は、聞き手を、語る活動への適切な参入することが実現可能なものと言える。その際、CSの利用は相互行為上にどのような働きを持つのかは今後の課題にしたい。

参考文献

- Fotos, S. (1995). Japanese-English Conversational Codeswitching in Balanced and Limited Proficiency Bilinguals *The Japan Journal of Multilingualism and Multiculturalism*, 1, 1-16.
- 藤村香予 (2013). 二言語話者の談話における「コードスイッチング」・「コードミキシング」の必要性—英国に住む日本人の場合— *安田女子大学紀要*, 41, 23-32.
- Grosjean, F. (2008). *Studying bilinguals*. Oxford, Oxford University Press.
- Gumperz, J. J. (1982). *Discourse Strategies*. Cambridge, Cambridge University Press.
- Li, W. and Milroy, L. (1995). Conversational code-switching in a Chinese community in Britain: A sequential analysis *Journal of Pragmatics*, 23 (3), 281-299.
- 高木智世・細田由利・森田笑 (2016). *会話分析の基礎* ひつじ書房